

教員養成の理念と構想

<大学>

岩手大学の教職課程は、21世紀の課題である持続可能な社会の発展に必要な幅広く深い知識と教養の基礎の上に、地域を含む学校現場の課題に応えつつ、確かな学力と思いやる心を育むための優れた専門知識と柔軟な実践指導力を備えた教員の養成を目指している。

<人文社会科学部>

【人間文化課程】

東日本大震災と人口減によって存続の危機を迎えている地域社会が求める人材像を踏まえ、地域文化の理解や取り組みを通して、1)世界の多様な文化とのつながりや文化の相対性を理解し、2)さらに、地域社会の中で生活をしていく人間存在やその行動を、社会や文化との関わりの中で理解し、3)その結果として、地域住民の心身の健康の向上を促進し、地域社会の発展に貢献できる人材を養成し、地域の再生・活性化に資することを目指す。

1, 2年次は人文科学の基礎力に重点を置いた科目(課程共通科目)を履修させるとともに、教員としての基礎力を身につけるための教養教育科目を履修させる。2, 3年次で、教科に関する一般的・包括的内容を含む科目及び各教科に関する科目を広く学ばせ、教職及び各教科に関する基礎学力を涵養する。3, 4年次では、複数教員が一つのテーマについて講義を行い、複眼的視野を養う学部共通科目を必修にするとともに、特別研究で各教科科目に対するより深い知識を身につけさせる。

【地域政策課程】

震災復興に取り組む被災県において持続可能な社会づくりを進めるには、法・経済・環境の価値を同時に実現していくことが不可欠であり、この課題に総合的に取り組み、地域社会に貢献できる人材を育成するため、地域マネジメント、地域創生を軸とした法学・経済学・環境学を統合した教育を行うことで、「持続可能な社会づくり」の担い手を輩出する。本課程で培った能力を活かした教科教育、学級経営を行うことにより、地域の将来を担う子どもたちに「持続可能な社会づくり」に対する意識を育て、そのすそ野を広げることにより、地域の持続可能性の実現に貢献する。

1, 2年次は社会科学の基礎力に重点を置いた科目を履修するとともに、教員としての基礎力を身につけるための教養教育科目を履修させる。2, 3年次で、教科に関する一般的・包括的内容を含む科目及び高校公民に関する科目を広く学ばせ、教職及び公民科に関する基礎学力を身につけさせる。3, 4年次では、複数教員が一つのテーマについて講義を行い、複眼的視野を養う学部共通科目を必修にするとともに、特別研究で公民科科目に対する広がりや専門知識を身につけさせる。

<教育学部>

【学校教育教員養成課程】

本課程は、小・中学校及び特別支援学校の教員養成を中心として、地域における教員養成の拠点的機能を果たしていくことを使命としており、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感を持って教育に取り組むことができる学校教員の養成を行う。

本課程は、幼稚園、小学校、中学校の全教科、高等学校、特別支援学校の教員免許状の取得を可能とする。また地域のニーズに応えるために、全学生を対象に複数の教員免許状(小+中、小+特別支援、中+特別支援、中2教科)の取得を卒業要件に課すこととする。教員養成に特化した4年間一貫カリキュラムを整備し、教員養成の質的充実を図り、専門的力量および理論に基づいての優れた実践的力量を身につけさせ、教員として必要な資質能力を獲得できるようにする。

<理工学部>

【化学・生命理工学科】

持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、科学技術分野における基礎学力ならびに理学的・工学的課題に積極的に挑戦できる専門的能力を有するとともに、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

【物理・材料理工学科】

材料科学及び数理・物理学の基礎的素養、数理・物理コース、マテリアルコースの特徴ある専門教育、更には、地域社会における物理・材料理工学の使命・役割の学びを基盤として、高等学校教育に求められる十分な専門知識とそれに裏打ちされた授業実践力、地元地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。

【システム創成工学科】

岩手県下・東北を中心にものづくり産業やそれに関連する職業人の養成に携わる教員を養成し、安全・安心な循環型社会の実現に貢献することを本学科の教育養成に対する基本的理念とする。この理念の実現のため、教員をめざす者ともものづくり関連産業への就業を目指す者が同じ教室で学び、相互に刺激し合うような実践的カリキュラムの下で、切磋琢磨し合えるような教育を行うことが本学科の構想である。

<農学部>

【植物生命科学科】

近年、理科や農業に対する生徒の興味・関心・学力の低下が深刻化していることを鑑み、専門知識を基にした実践的指導力を有し教科の内容が科学技術の発展にどのように関わっているのか、あるいは、農学技術が社会の基盤形成にどのように役立っているのかなど理科や農業のおもしろさと重要性を具体的かつ実践的に伝えられる教員を養成する。

各年次によって段階的に、また、農学系・理学系科目をバランスよく配したカリキュラム編成を行い、幅広い現代農学の知識と技術、及び、最新の基礎生命科学に関する高度な理解を兼ね備えた教員を養成する。

【応用生物化学科】

化学および生物学の複合的視点から物事を捉えることができ、生物や化学に関する基礎から応用までの幅広い知識や実験技術を兼ね備え、最先端の生命科学や諸課題への合理的な解決と、持続的か

つ安定的な農業の展開に生かすことができる教員を養成する。

1年次において基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を修得し、2～3年次前期には、生物学及び化学的な視点から専門知識及び実験技術を修得し、発展的知識を養う。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。4年次では、教育実習を経て自己課題とその解決策を整理し、今後の授業展開の材料とし、学習課題を総括できる能力を修得する。

【森林科学科】

自然体験の不足や、農林業の生産現場を身近なものとして感じられていない生徒達に対し、体験を通して得た自らの言葉で、森林の健全性を保つ事が地球環境問題を初めとする諸問題の解決を目指す上でどれだけ重要なのか、教え伝えることができること、また、林業やそれに関連する職業への就業を目指す生徒達に対し、世界や日本の森林・林業が直面している課題や、持続可能な森林施業について、その意義や具体的な技術を教えることのできる教員の養成を目指している。

1, 2年次に教養教育科目と専門基礎科目を配置し、2年次以降は、附属演習林を活用した実践的な学習を通して、環境教育についても学ぶ。林業技術を習得する科目に加え、持続可能な林業経営や認証制度、また地域と観光をつなぐアイデアや法制度について学び、幅広い視点から課題解決能力を身につける。

【食料生産環境学科】

工学技術の基礎となる理科全般の素養と農学における実践的応用力を身につけ、農業と水産業の核心部分である農村と農業基盤の整備と発展的更新、食料生産システムの高度化や食産業の成長及び広範な海洋生物の生態と有益な利用方法を理解し、グローバルな視点から安定的な食料需給や地域産業の持続性ある創生に意欲を持って行動できる生徒を育てることができる教員を養成する。

1, 2年次に教養教育科目と専門基礎科目を配置し、2年次以降に、専門科目を配置し、基礎学力を身につける。また、2, 3年次に科学英語とインターンシップを配置し、グローバル化や学生の問題解決能力の向上に対応する。さらに、2年次にPBL(課題解決型)科目を配置し、自ら課題を解決する能力を身につける。3年次以降に、専門性や実習系科目により、体験的学習を通じたコミュニケーション能力の向上と地域課題の解決能力を身につける。

【動物科学科】

動物に関する知識及び技術の教授を基礎とし、地域社会の発展と次世代の理系教育に資する人材の育成を教員養成に対する理念とする。生物と化学に深い素養を身につけ、最先端の生物学をわかりやすく伝え、生徒に理系分野を将来の魅力的選択肢として示すとともに、確かな基礎学力のもと動物生産科学を正しく理解し、社会における重要性や問題点を正しく把握し、日本の食料生産を支える意欲を持った生徒を育てることのできる教員を養成する。

1年次は基礎科目を包括的に学び、幅広い視野を形成する。2年次以降は専門分野の基礎科目を学修し理科、農業それぞれの基礎学力とともに、専門性を身につける。さらに教育法や実習などの教育を通して、学校現場における実践的指導力を養成する。

＜大学院＞

＜総合科学研究科＞

【地域創生専攻】

社会基盤の整備・維持管理，多発する自然災害に対する防災・減災，我々を取り巻く環境の適切な評価と浄化および維持保全に関する幅広い知識と深い洞察力を身につけ，地域特有の自然環境や社会条件に配慮した社会基盤の構築を専門的な視点で工学系科目の教育に取り組むことのできる人材を育成する。

研究科共通科目の総合科学科目では，震災復興・地域創生，イノベーション，グローバルをキーワードとした科目群を設置して，自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとをとらえることができる能力を，また，技法知科目では国際性や研究倫理を身に付けさせる。専攻共通科目では，大学を飛び出して市民や地域，海外などの多様な情報や刺激を，学生自らが積極的に関わり発信しながら学ぶ科目などを開講する。コース共通科目では地域づくりに活用できる手法や技術の基礎を総合的に修得することを目的とする「地域防災特論」，安全・安心な社会及び社会基盤を構築し，さらに，人と環境に優しく持続的発展が可能な社会を造るための考え方や手法を理解する「社会基盤・環境工学特論」を開講する。プログラム科目では建設工学，都市計画学および環境工学の3つの工学系専門分野の講義科目をバランスよく配置し，さらに，特別研究では構造工学や地盤工学，都市計画学，環境浄化工学など，それぞれの専門分野の工学的手法に基づいた実験，論文作成を行う。これにより，幅広い知識と高い実践能力を有する教員を養成する。

【総合文化学専攻】

自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとを捉えるための能力（俯瞰的視野）と，他分野の専門家と協働し新たな価値を創造する能力を身につけさせるとともに，社会の様々な課題解決に貢献する教員を育成する。

研究科共通科目で，学士課程段階で形成された個別的な専門的基礎の上に立って，自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとを捉えるための能力（俯瞰的視野）と，他分野の専門家と協働し新たな価値を創造する能力を修得させるとともに，「文化マネジメント力」の基礎的能力と実践力を養成する科目を置く。また，修士レベルでの専門性を確保のほか，①学生の学修目標に応じた履修科目の組み合わせができる，②履修科目を厳密に固定化しないことで，社会のニーズの変化に柔軟に対応できるカリキュラムが可能になる，③担当教員数が今後制約される可能性がある中で学生の学びの場を保障できる，等の利点から，5つの教育プログラムを設定する。

＜中学校・高等学校国語＞

日本語・日本文化を深く理解し指導的な立場で世界へ発信でき，それを次世代につなげる教員を養成する。

国語教員養成の中心となる「日本文化理解プログラム」では，日本語・日本文化について広く学ぶことが出来るよう，日本の言語・文化・歴史・思想・書道等についての多様な特論科目を設置し，また，日本の言語・文化・歴史・思想・書道等についてより深い学修をするための展開科目（特別演習科目）を配置することで，教員養成理念の達成を目指す。

《中学校社会・高等学校地理歴史》

日本と世界の歴史を深く理解し、地域の文化遺産と保存の意義を知って地域文化の活性化を担い、また、次世代につなげることができる教員を養成する。

地理・歴史分野の教員養成の中心となる「地域文化リノベーションプログラム」では、文化遺産の価値を理解し、その保存・活用や発信に関わる、先史時代を含む歴史や地理・言語・文化に関する科目を設ける。そして展開科目ではそれぞれの学問領域の専門深化を目的とした科目を配置することで、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校社会・高等学校公民》

文化の特質を原理的・理論的な観点から考察し、文化内や異文化間での軋轢や価値対立などの課題を分析して、それらを解決・調整する技能を備え、こうした知識・技能によって、文化間のコミュニケーションや共生、文化の保存や発展などに関し、社会の様々な事業体において積極的な活動や提言ができ、それを次世代につなぐ教員を養成する。

公民分野の教員養成の中心となる「文化多様性理解プログラム」では、多様な文化の諸相を学ぶ科目、文化・集団間での軋轢等の課題を学ぶ科目、多文化主義の政治や教育の実践例を学ぶ科目に加え、課題の解決や異文化間の対話のための「共生倫理学」などを扱う科目、その展開として前述の科目をより具体的・実践的に学ぶ「特別演習」を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校・高等学校音楽、中学校・高等学校美術、高等学校書道》

地域に根ざした芸術をグローバルに発信でき、地域と世界の架け橋となる「芸術の担い手」として、また、それを次世代につなげる教員を養成する。

芸術分野の教員養成の中心となる「アート発信プログラム」では、各芸術分野についての専門知識と技術・実践力を修得するための科目を配置するとともに、地域の芸術活動を支援する際の方法論を学ぶ科目を配置する。また、より視野の広いアート感覚を養うために、他プログラムの科目も教育課程に配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校・高校英語》

外国語の運用能力を高め、欧米の文化を多角的・総合的に理解する「グローバル」な、また、それを次世代につなげることができる教員を養成する。

英語教員養成の中心となる「グローバル文化発信プログラム」では、学生が英語等各言語で地域と日本の文化を紹介・発信するための実践的活動を行う科目を置く。また、英語圏等で課題解決型の海外研修を行う科目、英語を使って自らの意見を主体的に発信する技能を養成する科目を置く。無論、英語等各言語について深く学ぶ科目群、複数の言語圏の文学・文化を幅広く学ぶ科目群、それぞれの学問領域の専門深化を目的とした演習形式の科目群を置き、教員養成理念の達成を目指す。

【理工学専攻】

総合科学研究科理工学専攻の教職課程は、深い教養と高い専門性を基盤の上に、各学校現場の課題と期待に応える教員の養成を目指している。

《専修免(数学)》

数理・物理コースは、数理科学、物理科学、物質科学の学修を通じて、エネルギー、資源および環境問題などグローバルな問題の解決と、科学技術分野におけるイノベーション創出・発展に貢献する能

力を備え、地域社会と学校現場の課題に応える教育的意欲、高等専門学校教育に求められる十分な専門知識と実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。

《専修免(理科)》

物質化学コースは、持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、科学技術分野における基礎学力ならびに理学的・工学的課題に積極的に挑戦できる専門的能力を有するとともに、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

生命科学コースは、持続可能な長寿健康社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、自然科学分野の基礎学力ならびに生命理工学分野の課題に積極的に挑戦できる専門的能力を有するとともに、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

《専修免(工業)》

材料科学コースは、材料科学および材料工学の学修を通じて、21世紀の地球的課題の解決に取り組む意欲と能力を有し、材料科学の革新によるイノベーションの創出で社会の活性化に貢献する能力を備え、地域社会と学校現場の課題に応える教育的意欲、高等専門学校教育に求められる十分な専門知識と実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。

電気電子通信コースは、持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、電気電子通信分野における基礎学力ならびに工学的課題に積極的に挑戦できる高度な専門的能力を有するとともに、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

機械・航空宇宙コースでは、「システムデザイン分野」、「バイオ・ロボティクス分野」、「航空宇宙分野」の教育研究を強化する。これらの分野に関する深い専門知識と幅広い周辺技術を修得することで、高等学校の工業科の教育において具体的応用事例を交えながら分かりやすい授業を実践できるようになると考えている。さらに、研究活動を通してコミュニケーション能力を涵養し、十分なコミュニケーション能力を持って的確に学生の指導が行えるようになると考えている。機械・航空宇宙コースではこうした素養を持った教員の育成を目指す。

知能情報コースでは、高等学校教育に求められるコンピュータ科学や知能情報工学に関する十分な専門知識とそれに裏打ちされた授業実践力、急速に進むIT化による学校現場の課題に応える教育的意欲、実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。

【農学専攻】

農学・生命科学、特に寒冷地農学の教育研究の深化により農学分野においてイノベーションを興すために必要な素養と技術を身に付け、グローバルからローカルまでの視点で理科系ならびに農学系科目の教育に取り組むことのできる人材を育成する。

震災復興・地域創生、イノベーション、グローバルをキーワードとした研究科共通科目を設置して自然科学、人文科学、社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとをとらえることができる能力を修得させる。また、技法知科目では国際性や研究倫理を身に付けさせる。専攻共通科目では農学に関する最新の研究成果と将来動向、農業経済、農業経営の視点からの講義や文献調査、実験計画法、プレゼンテーションに関する演習を実施する。それぞれのコース科目では理科系および農業系科目をバ

ランスよく配置している。さらに、特別研究では植物や動物、微生物、生物資源などを対象とし、生物学的、化学的手法に基づいて修士論文の実験、論文作成などを実施する。これにより、幅広い知識と高い実践能力を有する教員を養成する。

《理科》

自然現象に対して高い関心を持ち、目的意識をもって観察・実験に取り組み、科学的に探究する能力を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

科学的な切り口から俯瞰的に各現象をとらえ、植物や生物を対象とし、生物学的、科学的手法を用いて取り組むことができる講義・実験を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《農業》

農業の社会的な意義や役割を理解し、農業に関する諸課題を主体的に解決し、持続的及び安定的な農業と社会の発展を図る能力を育成する。

農学に関する最新の研究成果と将来動向、農業経済、農業経営の観点からの講義、演習等を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

<教育学研究科>

【教職実践専攻(教職大学院)】

子どもと学校を取り巻く状況がますます複雑化・多様化する中で、教員には単に教科指導や生徒指導を遂行する能力だけではなく、同僚教員や地域社会の関係者と連携・協働する中で学校教育上の諸課題を組織的で協働的に解決する能力も求められている。同時に、団塊世代の大量退職時代を迎える中で、学校の教育活動の中核となる30代から40代の主任クラスの教員(ミドルリーダー)の役割が極めて重要となっている。加えて、学校の先頭に立って学校の教育力の向上のためにリーダーシップを発揮できる専門的力量を備えた管理職(校長、副校長、教頭)の役割もますます重要になっている。

そこで、本学教職大学院では、学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度の専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを、教育理念とする。具体的には、これからの学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダーを養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成する。

○スクールリーダーに求められる4つの専門的力量の修得

このような教員養成の理念を実現して、これからの学校教育を牽引するスクールリーダー及びその候補者となる教員を養成するため、岩手大学教職大学院では、必修科目である「専攻共通科目」と充実した「実習科目」及び「教育実践リフレクション」を通して、全ての院生に「4つの専門的力量」を共通に修得させる。その「4つの専門的力量」とは、①子ども支援力(的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量)、②特別支援教育力(特別支援教育に関する専門的力量)③学習指導力(確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量)、④学校改革力(学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量)である。

○専門性を深化させるプログラム制の採用

さらに、これら4つの専門的力量のいずれかをさらに深化させて、より専門性を高度化させることがで

きるように、①学校マネジメント力開発プログラム、②授業力開発プログラム、③特別支援教育力開発プログラム、④子ども支援力開発プログラムの「プログラム制」を導入する。教職大学院の入学後に、院生のライフステージや学修ニーズに応じて、主として履修するプログラムを選択できるようにする。学校マネジメント力開発プログラムは、現職院生だけを対象とするもので、学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。授業力開発プログラムは、教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。特別支援教育力開発プログラムは、特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。子ども支援力開発プログラムは、いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量的を備えた人材を養成する。

○充実した教員組織

上記のような、教職大学院の教育理念及び人材養成目的を実現するためには、それに見合う充実した教員組織が必要である。そこで、岩手大学教職大学院は、教職大学院設置基準の必置専任教員(特別支援教育を加えた際の設置基準では13名の専任教員)に加え、2名の専任教員を加えて、15名の専任教員を配置する。さらに、主として4つのプログラムの開設科目と実習における学生指導を専任教員と協働的に担う兼任教員を21名配置する。兼任教員の専門は、教科教育、教育学、心理学、そして特別支援教育となっている。

専任教員および兼任教員の配置に当たっては、岩手大学教職大学院が教職としての高度な専門的・実践的力量的を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的にすえていることから、専門的にも人間的にも「教師教育家」(Teacher Educator)としての十分な資質能力のある教員を選任することを心がける。また、実務家教員の人選にあたっては、県教育委員会等と緊密に連携・協力して選考を行うこととする。実務家教員を含む専任教員の資格審査基準を定める。

具体的な教員配置においては、4つのプログラム制を想定していることから、それぞれのプログラムを主として担当する専任教員とその専門分野を十分に勘案して、十分な教育効果を上げることができるよう最大限の配慮を行う。